

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立小中一貫校滝野校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びにつながる授業の工夫、対話的な学びの工夫、分かる授業の工夫を実践することができた。(①全員授業 ②ワールドカフェ方式の事後研 ③「めあて」「まとめ」「振り返り」のある授業の実践) 小規模校の特性を活かし、教職員は学校生活の中で授業だけではなく様々な場面で児童生徒と関わりを持ち、道徳教育、人権・同和教育に取り組んできた。 児童生徒は地域の方々と年間を通して様々な活動（花いっぱい運動、地域の除草作業、体育大会・学習発表会この地域ふれあい活動 等）で交流を実践することができた。

2 学校教育目標	自ら学び 心豊かで 志を持って生きる児童生徒の育成
----------	---------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 分かる授業の構築と確かな学力の向上 ② 豊かな心と健やかな体づくり ③ 家庭・地域とつながり、地域を元気にする学校作り
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価	主な担当者		
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し		達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上とする。	・校内研究の際、全職員で学力向上対策評価シートの確認を行い、取り組みの促進を相互に促す。	C	・9月末現在、職員によるマイプランの成果指標達成78%。再度、学力向上対策評価シートの確認と、取組の促進を促すことで、90%以上を目指す。	B	・職員によるマイプランの成果指標達成84%となり、学習状況調査の結果から今後の対策を全職員で共通理解し、前回より達成度が向上した。	●学力向上対策 コーディネーター ●研究主任
	○分かる授業の構築	○学校評価アンケート項目「授業が分かる」の肯定的回答が80%以上とする。	・全教科で「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を実施する。 ・小規模校でできる「主体的・対話的で深い学び」の指導方法を工夫する。	B	・9月末現在、児童生徒の学校評価アンケートで「授業がわかる」の肯定的回答が85%、職員へのアンケートでも「分かる・できる授業」を目指した授業を行っている」項目で85%であった。今後も校内研の時間を中心に、指導方法の工夫について情報交換や共通理解を図っていく。	A	・児童生徒の学校評価アンケートで「授業がわかる」の肯定的回答が87%と前回より向上し、職員へのアンケートでも「分かる・できる授業」を目指した授業を行っている」項目で89%と向上が見られた。 ・学年を超えた学び合いの機会の設定など、「主体的・対話的で深い学び」の指導方法の工夫ができた。	●学力向上対策 コーディネーター ●研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○年間計画に基づいて道徳の授業を行った教師を90%以上とする。 ○人権・同和教育を推進する。	・各学年で年間計画に従って道徳の授業を行う。 ・年に1度は必ず「いのちの授業」を行い、授業を公開する。 ・人権集会や平和集会を開催し、児童生徒の人権に対する意識を高める。 ・やまびこ広場で担任以外の教師にも講話を行ってもらい、児童生徒の心を豊かにする。	B	・人権集会や平和集会などの事前事後にはクラスで道徳の授業を行い、深化補充に努めた。 ・「いのちの授業」ではほぼ全員の保護者の参観があった。 ・人権同和教育については、校内研で指導案検討や授業研を行い、全学級でしっかり取扱いができています。 ・年間計画に基づいた道徳の授業については達成率が85%であり、90%に達していない。	A	・校内研として全職員が人権や同和教育について考えを深め、授業実践を行うことができた。 ・人権集会では、いじめの標語を作ったり、書写の作品にするなどしていじめの防止や思いやりの心を育成することができた。 ・やまびこ広場では、取り扱う内容について事前に共通理解し、道徳の時間に関連した内容を取り扱うことにより、考えを深めることができた。 ・年間計画に基づく道徳の授業の実践の達成率に關しても90%を達成することができた。	道徳教育推進教師 特別支援教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○毎月の生活アンケートの実施率100%を目指し、全ての児童生徒と全職員でいじめの芽を見逃さない力を高める。 ○全学級で年間1時間以上は、命に関する授業を公開し、職員間の意識を高める。	・児童生徒に月1回の生活アンケートを実施し、児童生徒の人間関係の把握に努める。また、些細な困り感のある児童生徒を見逃さないようにSCやSSWと連携し、計画的にいじめ防止に取り組む。 ・人権・同和教育や道徳の時間、職員による人権講話を定期的実施する。	A	・毎月生活アンケートや自尊感情に関するアンケートについて、実施率100%を実現させ、児童生徒の中でいじめが発生していないかどうか、きめ細かく情報収集することができた。 ・SCやSSWと連携し、児童生徒の困り感を把握して、適切に対応するよう努めた。 ・命に関する授業に取り組み、自分の可能性に挑戦しようという意欲を育てることに努めた。	A	・各月ごとの生活アンケートで、児童生徒の心の状態やいじめにつながるような事象把握して、すぐに対応できるように努めた。 ・職員連絡会で「気になる子の連絡会」を設定し、全職員で対応や支援方法を話し合い、指導や支援の共通理解を図った。 ・「命」に関する授業に、一人1回以上は取り組むことができた。 ・「やまびこ広場」では、その後の道徳の授業と関連させながら実施して、深い学びにつながるよう工夫した。	生徒指導主事
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)生徒(中学3年生・義務教育学校9年生)80%以上とする。	・学活の授業等での進路指導を充実させる。 ・各種学校行事や活動ごとに、「めあて」「ふりかえり」を実施する。	・統合への不安が大きい中、高校説明会を実施することができたが、「将来の夢や目標を持っている」についての肯定的な回答は78%に止まった。 ・例年通りの学校行事や活動が実施できなかったため、「めあて」「ふりかえり」を通じた充実感を味わうことができなかった。	C	・児童生徒の「将来の夢や目標を持っている」についての肯定的な回答は82%で、前回の78%からわずかではあるが向上した。 ・例年通りとはいかないまでも、可能な範囲で学校行事や活動を実施することで、「めあて」「ふりかえり」を通じた充実感を味わうことができた。	B	・児童生徒の「将来の夢や目標を持っている」についての肯定的な回答は82%で、前回の78%からわずかではあるが向上した。 ・例年通りとはいかないまでも、可能な範囲で学校行事や活動を実施することで、「めあて」「ふりかえり」を通じた充実感を味わうことができた。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上とする。	『早寝 早起き 朝ごはん』について ・目指し、朝ごはん日記の実施する。 ・保護者や児童に向けての講演会を実施。 『食物アレルギーの対応』について ・いつ、だれにアレルギーが出てもおかしくないため、児童の異常に気付けるよう常に児童を観察する。 ・教職員が児童の変化に気づける目を養えるように研修会を実施する。	B	・朝ごはん日記で朝食摂取率は100%であった。 ・給食後の児童生徒の様子を観察することは、十分にできた。 ・食育の学習は、栄養教諭の先生や各担任の先生ででき、子どもたちは朝ごはんの大切さを知ることができた。	B	・朝食摂取率は年間を通して100%であった。 ・朝ご飯の内容にまでふれて、バランスよく食べる大切さをすることができた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で「食」に関する講演会ができなかった。	養護助教諭 食育教育担当者
	○運動習慣の改善や定着化	○「運動やスポーツが心身の健康の保持増進に大切である」と考える児童生徒85%以上にし運動習慣の定着化を目指す。	・部活動を通して、活動する意義や目的を伝える。 ・体育の授業以外で、運動やスポーツを行えるような手立てを行い、自宅等で活動できるようにする。	A	・「運動やスポーツが心身の健康の保持増進に大切である」についての肯定的な回答は90%であった。 ・試合等で滝野校として活動する際に、挨拶やマナー等の大切さを伝え、学校代表として活動していることを周知した。 ・夏期休業中に、課題として自宅で行える活動を提供することができた。	A	・「運動やスポーツが心身の健康の保持増進に大切である」についての肯定的な回答が最終評価で97%と若干であるが向上した。 ・部活動を通し、人間性・社会性を伝え、様々な活動場所で学校代表として活動していることを周知できた。 ・冬期休業中に、課題として自宅で行える活動を提供することができた。	体育主任 部活動顧問

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・教職員の放課後の業務改善の支援や会議の精選をすることで、職員の業務に取り組む時間の確保に努める。 ・定期的な定時退勤日と計画的な夏季休暇、年休取得を確実に実施していく。 ・管理職は、日常の勤務状況と業務記録を基に教職員の勤務実態を把握し、適宜声掛けを行う。	B	・業務改善委員会を設置し、学校組織として教育課程を見直し、朝の活動を削減し、授業開始時間を早め、放課後の業務取り組み時間の確保を行った。 ・夏季休業中に5日間の夏季休暇＋年休2.5日取得を設定し、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備した。 ・「毎月の時間外勤務の削減や定時退勤日の実施、計画的な年休取得に取り組むことができましたか。」のアンケートに 肯定的な評価は83%であった。 ・全職員の時間外勤務時間の平均が 17時間	B	・始業時間を早める取組は定着してきた。それに伴い、放課後の業務取組時間が確保でき、長時間勤務の削減につながった。 ・冬期休業中は、年末年始休暇に加え、年休取得をしやすい環境を整備することができた。 ・最終評価において、肯定的な回答は91%であり、中間評価よりも向上した。 ・全職員の時間外勤務時間の平均が14.5時間であった。	管理職
	○行事計画を次年度に向けて見直し、スクラップ&ビルドを実践する。	○学校行事、PTA行事等、教職員が関わる行事について、2割削減を目指す。	・コロナウイルス感染拡大防止に伴い、各種行事の中止・延期、規模縮小・時間短縮を実践し、児童生徒にとって本当に必要な行事だけに精選をする。	A	・「学校行事、PTA行事等、教職員が関わる行事について、本年度削減できたと思いますか。」のアンケートに 肯定的な評価は92%であった。 ・朝の交通当番や週休日の行事を削減したことにより、時間外勤務の削減につながった。	A	・最終評価において、 肯定的な回答は95%と若干であるが向上した。 ・学校行事については、精選しながら削減の方向で実施したため、職員の多忙感の軽減につながった。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
重点取組				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
○開かれた学校作り	○家庭・地域とつながり、地域を元気にする学校づくり	○学校評価アンケートにおける「開かれた学校」において肯定的な回答をした学校評議員、保護者を80%以上にする。	・地域の人材を活用して、児童生徒が郷土の歴史や文化に触れる機会を設ける。 ・学校からの情報発信に心掛け、学校行事、地域の伝統行事において、積極的に相互協力を行う。 ・地域行事を確実に把握し、参加、協力することで地域との連携を深める。	C	・中間評価において、肯定的な回答は 学校関係者は90%、保護者は100%、また、教職員は71% であった。これは、年度当初からコロナウイルス感染拡大防止にともない、外部人材の活用を制限してきたためと考えられる。 ・学校からの情報発信は「学校便り」、「ホームページ」、「学年便り」のみになっている。 ・保護者参観日は9月の「ふれあい道徳」の1回のみであった。 ・地域行事がコロナウイルス感染拡大防止の観点から中止になることが多く、参加・協力ができていない。	B	・最終評価において、肯定的な回答は学校関係者は92%、保護者は98%、また、教職員は81%であった。これは、夏期休業以降、コロナウイルス感染拡大防止対策をとりながら徐々に学校行事を実施してきたためと考えられる。 ・「学校便り」、「ホームページ」、「学年便り」に加え、安心メールや文書にて、適宜情報発信を行った。 ・地域との連携を図るため、「文化発表会」の代替行事として、「児童生徒の作品展」を地域のJA店舗で開催した。地域住民の方から好評を得た。	管理職
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育								
5 総合評価・次年度への展望	●学力の向上 ●心の教育 ●健康・体づくり ●業務改善 ○開かれた学校作り	県学習状況調査の結果を踏まえた対策を共通理解することができた。学力向上対策評価シートを元に、次年度も継続して指導を続けていく。 アンケート結果から見ると、目標・思いやりをもち活動する児童生徒へ近づけているため、次年度も更に計画的に指導継続する。 食育調査やアンケート、学校評価調査の結果より、児童生徒の心身の保持増進を養うことができた。次年度も引き続き取り組んでいきたい。 業務改善委員会を立ち上げ、今年度の取組をまとめて「行事のしおり」を作成し、次年度はさらに業務改善を行っていく。						